



方略の考え方と解釈について

兵庫県薬剤師会薬学教育部

新コアカリキュラムによる実習の進め方

新しい実務実習になったけど、どうすればいいのだろう？



「以前のSBOsと何がちがうんだろう？」
「評価をどうすればいいのだろう？」
と悩む先生も多いのではないのでしょうか。

言葉について

説明会に参加しても、キーワードとなる言葉の意味が難しくて・・・



最初に言葉について学んでおきましょう。

- ◆アウトカム・・・学習成果
 - ◆学習目標・・・具体的なパフォーマンス
 - ◆学習方略 LS (Learning Strategies)・・・
- パフォーマンスが実践できる学習環境を準備し、アウトカム・学習目標の評価が可能な学習方法の選択と順序をデザインすること。

3

学習成果基盤型教育について (Outcome-based Education (OBE))

「よい薬剤師とは？」という疑問から始めて



教育を終えたときに学生が修得していると期待される「**能力**」を設定して**学習成果 (アウトカム)**を定義する



この学習成果 (アウトカム) から「**学習目標 (具体的なパフォーマンス)**」を考える



学生がその学習成果 (アウトカム) に到達したか否かを**評価する方法**と基準を決める



学生がパフォーマンスを実践できる**方略 (学習環境)**を考える

4

ご自分の薬局で何ができる？

自店で学生に教えられること、経験させられることは何か考えてみましょう



OTCや健康食品
化粧品の販売

地域包括ケアシステムは地域のチーム医療



在宅や地域包括ケアシステム
市町村の多職種の会合など



服薬指導



調剤



近隣住民向け
勉強会



高齢者施設訪問



多職種との連携



健康フェアや学校薬剤師
などの地域活動

これら是一例です。
学生がパフォーマンスを実践できる
学習環境を準備することが大切です。
学生に何を経験させられるか、自店
の資源をまずは把握しましょう。

「よい薬剤師とは？」

理想の薬剤師、求められる薬剤師を考えてみましょう

指導薬剤師の先生がご自分の理想の薬剤師と、世の中から求められている薬剤師について検討してみてください。

実習が始まり、学生に考えさせて、不足があればその場で指導してもいいですし、実習を通じて学生に気がつかせるように課題を出すのも手だと思います。

この理想の薬剤師や求められる薬剤師に近づくために、実習でいろんな経験をしていくことを目標にします。

ちょっと一息

実習生は、やっぱり大学生です

実習に来る学生は年齢は20歳を過ぎ、同級生は社会人です。

6年制の薬学生なので、薬や病気、調剤技術なども沢山習ってきています。

このように私たち指導薬剤師は思いがちですが、現場経験の無い、知識も不足して、社会人のマナーもあまり習っていない大学生なのです。

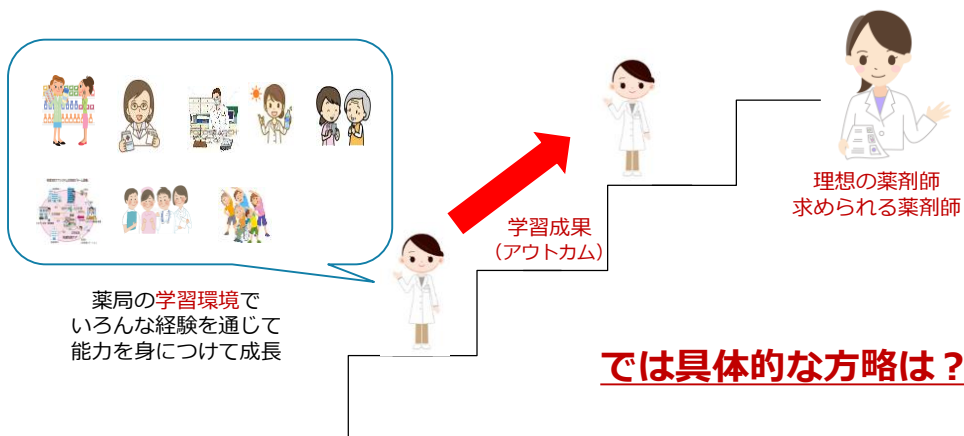
「自分が学生の頃もこんな感じだったな」と思って、ちょっと間違ったり、できなくても許してあげてください。

もちろん命を危険に晒すような間違いは、愛情を込めて叱ってください。



7

ここまでの話を図解すると



8

方略ついて①

服薬指導を例に方略を考えてみましょう

方略という言葉は、なかなか聞き覚えがなく、私たち薬剤師には難しい言葉です。上述の『言葉について』の項で学習方略 LS (Learning Strategies) は、「パフォーマンスが実践できる学習環境を準備し、アウトカム・学習目標の評価が可能な学習方法の選択と順序をデザインすること。」と学びました。服薬指導を例に話していきますが、まずは自店の環境から考えてみましょう。



9

方略ついて②

服薬指導を実習生にさせるとしたら？

自店は心療内科の門前薬局、自店は総合病院の門前薬局、自店は在宅が多い薬局など先生方の薬局の環境は違うと思います。

ガン患者は何名いるな、妊婦さんが何名いるな、などご自身の薬局の処方箋応需状況から、実習生にどんな患者さんを経験させられるかを考えてみます。



10

方略ついて③-1

先生が考える理想な服薬指導はどのようなものですか？

服薬指導に正解はありません。それは先生方が一番ご存知だと思います。

患者さん一人一人に合わせて行いますから、説明はセリフでも状況判断をしながら説明をしていきます。ハッキリとスパッと話すのが好きな先生や、じっくり聴いてから話すのが好きな先生もいらっしゃるかと思います。

では実習生はどうか？と言えば、「大学では得意だったのに～」と多くの実習生が言います。大学ではセリフを覚えてそれを話しているので上手にできるようです。

本物の患者さんを相手にするとガチガチに緊張するという場面を多くの先生が見られているのではないのでしょうか。

方略ついて③-2

先生が実習生に「OK！」と言える服薬指導は？

ガチガチ緊張の実習生から、先生が「これならよし！」と言える服薬指導にしていけるために、どのように指導していくかを考えます。

「大学で習ったでしょ！」「私の服薬指導を見て真似をしなさい！」「自分で考えろ！」は、現在の実習生では通用しないようです。上手くリードする必要があります。



方略ついて③-3

先生が実習生に求める能力を考えてみましょう

本物の薬剤師のような服薬指導を学生が実施できるようになるのはなかなか難しいです。もちろん本物に育てるのであれば、本物に育てあげる準備が必要になってきます。ここでは患者さんからの話が聞けて、薬の説明ができるくらいを目標にしてみます。



13

方略ついて③-4

実習生がその目標を実現するのに必要な要素を列挙してみましょう

「患者さんからの話が聞けて、薬の説明ができるくらい」

これを実現するために必要なことを付箋などを書いて、大きな紙に貼り付けてみましょう。

1人で考えるのが大変であれば、他の薬剤師の先生の力を借りても良いと思います。

この方法はブレインストーミングと言います。

一目で見ることができるので、物事を考えるときに役立つ方法です。沢山書いて貼り付けるのがコツです。



14

方略ついて③-5

どのようなことが列挙できましたか？

「患者さんからの話が聞けて、薬の説明ができるくらい」ができる実習生に育てるには要素を具体的に考えると・・・

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 薬の知識 | <input type="checkbox"/> 話術 |
| <input type="checkbox"/> 病気の知識 | <input type="checkbox"/> 身ぶり手ぶり |
| <input type="checkbox"/> 血液検査の結果がわかればいいな | <input type="checkbox"/> 得た情報を処理する力、考える力 |
| <input type="checkbox"/> 患者の話が理解できたらいいな | |
| <input type="checkbox"/> 患者の話に対してきちんと返事ができたらいいな | などなど |
| <input type="checkbox"/> やさしさ | |
| <input type="checkbox"/> 笑顔 | |
| <input type="checkbox"/> 一生懸命 | |

指導薬剤師の先生が期待する学習成果（アウトカム）に向けて実習生に学ばせることが明確になってきます。

15

方略ついて③-6

どのようにして実習生に力をつけさせるか？

先ほど列挙した内容を具体的に学ばせたり、経験させていくことを計画します。

ただし、最初から多くを求めてもできない結果になるので、簡単なことから始めましょう。

薬の知識・・・大学で習ってきてるよな？は危険。テストのために学んでいる傾向があります。

例えば、目の感染症の「ものもらい」の患者が来たら担当してもらおうと計画します。

ものもらいによく使用されるクラビット点眼液を事前に学ばせておきます。しかし学んだだけではアウトプットできません。

指導薬剤師の先生が患者役になってロールプレイングをしてみたいかがでしょうか。

その際、学生の姿勢やししゃべり方、視線であったり、服薬指導の流れ、説明するポイント、患者からの質問例などを教えてみるとよいと思います。何回か練習したあとに、実践をさせます。そしてその結果を評価してあげてください。

このように一つずつ最初に具体的なやり方を教えて学ばせることで、実習生自らが要領を得て自ら学ぶ姿勢ができてくるようにしていきます。

16

最後に

忙しくてこんなことしてられない！！



「忙しいからできない！」とよくお話をうかがいます。

忙しいからこそ、最初にきちんと教え込むことで、指導薬剤師の先生も楽ですし、実習生も楽のようです。「今回の学生は戦力になって助かった！」とおっしゃる先生もいるかと思えます。実習生は学びに来ているのですから、本来はおかしな話なのですが、例えば、調剤の基本を最初に叩き込めば、実習生も“水を得た魚”のように一生懸命にがんばります。本物の薬剤師のようにできる実習生がいるのも事実です。

忙しいからと言って、あまり基本を教えず、「大学で習ってないの?!」と叱ってばかりだと実習生も委縮してきます。

17

最後に

忙しいからこそ最初に教え込む！！

忙しいからこそ最初にきちんと叩き込むことで、最初は大変ですが、結果は明らかです。忙しいから小出しで教えて、実習最後までずっと教えて疲れ果てるよりも、かなり効率的のようです。

他の先生方の協力も得て、最初に教え込むような体制を薬局で構築するのも大切な要素となりますので、是非実践してみてください。

実習生が笑顔で病院実習に行くのを見送るのが、指導薬剤師の最高の喜びだと思います。実習生が充実の実習でできるようになったからこそ得られる笑顔なので、その笑顔を目指してがんばっていきましょう！！

18